

新版『中学書写』は、本編と、取り外せる「書写ブック」（硬筆練習帳）で構成されています。新たな試みである「書写ブック」の効果的な使い方について、編集委員の松本仁志先生にお聞きしました。



広島大学大学院教授 松本仁志（まつもとひとし）
一九六四年、千葉県生まれ。専門は書写
書道教育。光村図書小・中学校『書写』
教科書編集委員。著書に『筆順のはなし』
（中央公論新社）、『書くこと』の学びを
支える国語科の展開（三省堂）など。



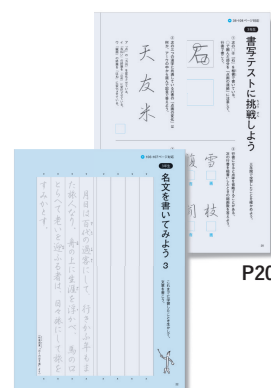
P58-59 「点画の変化」



P10-11 「点画の変化」

「書写ブック」の硬筆課題に
取り組み、毛筆での学習を定着させる。

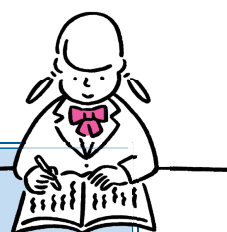
「教科書」で文字の
整え方を確認する。



P20

P22

「書写ブック」の活用場面



1 書写の授業時間に

本編の「③生かそう」と連続させて、授業時間内に使用します。時間が足りなくなることがないように、単元計画や授業計画は、「書写ブック」を使用するところまでを入れて考えましょう。

2 帯学習や国語の授業時間に

朝学習や、国語の授業始めなどの帯学習の時間に、本編の事後学習（復習）として取り組むことができます。「名文を書いてみよう」は、文学的な文章における豊かで優れた描写を認識し、書きながら味わうということばの学びの側面があります。国語の学習に関連づけて使用するとよいでしょう。

3 家庭学習で

毛筆学習やインターネットの環境が整っていない場合でも、家庭学習で使用することができます。昨年度は、新型コロナウイルス感染症による自粛期間が長く続きましたが、教師や保護者が適切に関わることで、他者から認められる喜びを生徒が感じられるように配慮したいものです。

使用法① 本編と関連づけて使用する

本編は、「①考えよう」「②確かめよう」「③生かそう」という学びのサイクルで進められます。この「③生かそう」の活動を充実させて知識・技能の定着を図るのが、「書写ブック」の主な役割です。
活用の際は、必要に応じて本編と相互に行き来

使用法② QRコンテンツを活用する

生徒の手にインターネットに接続したタブレット等があれば、教科書のQRコードから教科書連動サイト「広がる学び 深まる学び」にアクセスし、毛筆実技のほか、姿勢・執筆に関する動画を視聴することができます。「書写ブック」を使用する際には、常に視聴するようにして、正しい姿勢・執筆に対する意識をもって学習に臨みましょう。

使用法③ 学習の成果を確認する

これまでの書写学習の成果を確認するために「書写ブック」を活用することもできます。「書写テストに挑戦しよう」（P20）は、学校の定期テストや高校入試、各種学力調査等における書写に関する問題への対策として使うことができます。学習成果が不十分な場合は、本編の関連ページにフィードバックして確かめ直しましょう。「年賀状を書こう」（P26）からは、生活における実際の書字活動の場において、行書学習の成果を試すことができます。